

改訂：2026 年 8 月 12 日

AWS 上の Cisco ISE インスタンスの概要

Amazon Web Services 上の Cisco ISE の概要

既存の Cisco ISE セキュリティポリシーを Amazon Web Services (AWS) に展開することで、リモートおよびクラウドベースの環境にシームレスに拡張できます。この統合を活用することで、ユーザーとデバイスがどこにいても、一貫したアクセス制御と可視性を維持できるようになります。このアプローチにより、複雑なネットワークの管理を簡素化し、インフラストラクチャ全体で一貫したセキュリティ態勢を維持できます。最終的には、現代の分散型ネットワークのセキュリティニーズをサポートする、拡張性と柔軟性に優れた基盤を利用できるようになります。

AWS CloudFormation テンプレート (CFT) または Amazon マシンイメージ (AMI) を通じて Cisco ISE を AWS に設定し、起動できます。

AWS で Cisco ISE を起動する方法

AWS CloudFormation テンプレート (CFT) または Amazon マシンイメージ (AMI) を通じて Cisco ISE を AWS に設定し、起動できます。次のリストのいずれかの方法で CFT を使用することをお勧めします。AWS で Cisco ISE を起動するには、次のいずれかの手順を実行します。

- AWS マーケットプレイスからの Cisco ISE CloudFormation テンプレートの起動
- CloudFormation テンプレートを使用した Cisco ISE の起動
- Cisco ISE AMI の起動

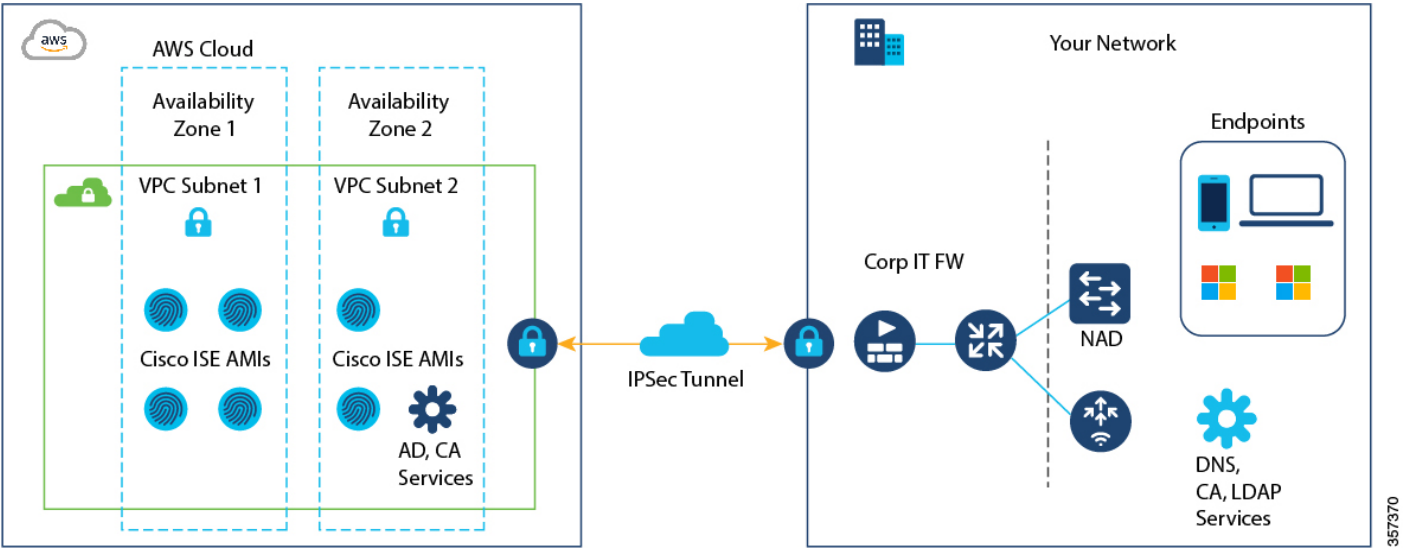
CFT の概要

CFT は、クラウドの導入を簡単に作成および管理できる AWS ソリューションです。AWS 内で仮想プライベートクラウドを作成してネットワークをクラウドに拡張し、IPsec トンネルを介して組織のネットワークと通信できるように、仮想プライベートゲートウェイを設定します。

AWS クラウドに接続された展開の例

次の図はあくまでも一例です。組織の要件に応じて、認証局 (CA)、Active Directory (AD)、ドメインネームシステム (DNS) サーバー、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) などの共通サービスを、オンプレミスまたは AWS に配置できます。

図 1: AWS クラウドに接続された展開の例



参考資料

AWS における CFT の使用の詳細については、[AWS CloudFormation のユーザーガイド](#)を参照してください。

Cisco ISE インスタンスと使用目的

次の表に、現在使用可能な Cisco ISE インスタンスの詳細を示します。次のいずれかのインスタンスを使用するには、Cisco ISE VM ライセンスを購入する必要があります。特定の要件に対応する EC2 インスタンスの価格設定については、「[Amazon EC2 オンデマンド料金](#)」を参照してください。

表 1: Cisco ISE インスタンス

Cisco ISE インスタンスタイプ	CPU コア	RAM (GB)
t3.xlarge このインスタンスは、Cisco ISE の評価のユースケースをサポートしています。100 の同時アクティブエンドポイントがサポートされています。 Cisco ISE リリース 3.5 以降、t3.xlarge インスタンスタイプはサポートされていません。	4	16
m5.2xlarge	8	32
c5.4xlarge	16	32

Cisco ISE インスタンスタイプ	CPU コア	RAM (GB)
m5.4xlarge Cisco ISE リリース 3.3 以降、m5.4xlarge インスタンスタイプはサポートされていません。	16	64
c5.9xlarge	36	72
m5.8xlarge	32	128
m5.16xlarge	64	256
c7i.4xlarge*	16	32
m7i.2xlarge*	8	32
m7i.8xlarge*	32	128
m7i.16xlarge*	64	256

*Cisco ISE リリース 3.4 パッチ 4、3.5 以降では、AWS 上の M7i および C7i インスタンスタイプがサポートされています。

AWS S3 ストレージサービスを活用して、バックアップおよび復元ファイル、モニターリングおよびトラブルシューティング レポートなどを簡単に保存できます。



注目

- 汎用インスタンスを PSN として使用する場合、パフォーマンスの数値は、PSN としてのコンピューティング最適化インスタンスのパフォーマンスよりも低くなります。
- m5.2xlarge および m7i.2xlarge インスタンスは、極小規模 PSN としてのみ使用する必要があります。

特定のインスタンスタイプの使用目的

次の表は、いくつかのインスタンスタイプとその使用目的を分類したものです。

表 2: インスタンスタイプとその使用目的

インスタンスカテゴリ	インスタンスタイプの例	使用目的
コンピューティング最適化インスタンス	c5.4xlarge c5.9xlarge c7i.4xlarge	- コンピューティング集約型タスクまたはアプリケーション - ポリシーサービスノード (PSN)

インスタンスカテゴリ	インスタンスタイプの例	使用目的
汎用インスタンス	m5.4xlarge (このインスタンスは、Cisco ISE リリース 3.2 以前のリリースでのみ利用可能) m5.8xlarge m5.16xlarge m7i.8xlarge m7i.16xlarge	- データ処理タスクとデータベース操作 - ポリシー管理ノード (PAN) またはモニタリングおよびトラブルシューティング (MnT) ノード、またはその両方

参照

AWS インスタンスのスケールおよびパフォーマンスデータについては、『[Performance and Scalability Guide for Cisco Identity Services Engine](#)』ガイドを参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。